

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

## 今、自分が見ている景色

茅ヶ崎市立松浪中学校 2年 <sup>たな</sup>多那 <sup>はると</sup>晴都

朝、目が覚めた。僕は生きてる。今日も始まるんだ。

何を当たり前なことを言ってるんだと思うかもしれない。でも、当たり前なことではないんだ。目が覚めることや、当たり前前の風景、日常があること、それは特別なことなんだ。

僕が小学6年生の時に2人の祖父が亡くなった。すごく近くにいたのにそれはあっけなくおとずれた。本当にあっけなく……。会おうと思ったらいつでも会えた。話そうと思ったらいつでも話せたはずなのに。

入院してしまって次に会った時には目を閉じて動かない祖父だった。ただ寝ているだけにも見えたけどもう二度と目を開けることはなかった。頑張ったな、偉かったなと言って頭を撫でてくれた祖父の温かかった手。時間とともに冷たくなった。それは怖いくらいに冷たかった。当たり前だけど手を握り返してくれることもなかった。理解しているつもりでも理解出来ない自分がいた。

自分に見えるこの世界を祖父はもう見る事が出来ないんだ。それでも変わりなく続いていく日常があることが不思議で仕方がなかった。

コロナ禍で入院した祖父達。面会に行くことさえも許されず会えないまま亡くなってしまったことを母は今でも心を痛めている。コロナという得体のしれないものに悔しさを覚えるという。ああすれば良かった、こうすれば良かったと後悔をよく口にしている。

人が亡くなると火葬されることは知っていた。でも、実際に見るのは初めてだった。骨になった祖父と対面し、それが祖父だと言われてもあまりの衝撃に言葉が出ず受け入れることが出来なかった。小さな箱に収まってしまう現実に言葉を失った。

人は誰でもいつかはこの世を去る。勿論、僕だって。まだ想像も出来ないけれど。ただ言えることは命は一つしかない一点物だということだ。そして、限りがあるということだ。この世に同じ命は存在しない。どの命も特別で代わりなものなんてないんだ。

僕がしているゲームのようにリセットしたらまた最初から始められたらいいけれど絶対に無理なんだ。だから命は何より大切なもの。大事な大事な命のはずなのにテレビや新聞などで事故や事件のニュースを聞かない日はない。自ら命を絶つ人もいる。79年前には長崎に原爆が

落とされ一瞬にして多くの命を奪った。そして、今もお苦しんでいる人もいる。いまだに戦争が起きて今もどこかで誰かが命を落としている。そんなニュースを聞くたびに悲しい気持ちになる。

生きることは楽しいことばかりじゃないと思う。辛いこと、苦しいこと、悲しいことも多いと思う。僕は苦手なことやこだわりが強く、日常生活でうまくいかないことも多い。

でも、僕は言いたい。僕は僕でいいじゃないか。僕は僕なんだから。みんなと違うんだから。僕は生きる。僕は僕らしく生きる。みんな違うんだからみんな大事。どの命もかけがえのない命。自分の命と同様に人の命も尊重しなければいけない。

祖母は今、入院している。昔から病氣と闘って頑張っている。毎日、命を大事に大事に守っている。母は毎日、面会に行っている。コロナが5類になり面会が許されたが制限があり、15分の面会だ。それでも祖母に会えることが嬉しいと言う。僕は年齢制限で行くことが出来ないから手紙や動画を母に託す。元気になって欲しいと願いを込めて。

明日、また朝になり、目が覚めたら当たり前じゃないことに感謝しようと思う。

高校野球やオリンピックで選手宣誓を耳にした。僕は誓う。

「宣誓、僕は命の尽きるまで正々堂々、悔いのないように一生懸命生きることを誓います。」